

1. 研究課題名：  
技術・社会に対する価値観の変化とリスク受容性  
に関する調査研究

2. 研究代表者氏名及び所属：  
青柳 みどり ((独)国立環境研究所)



3. 研究実施期間：平成 24～25 年度

#### 4. 研究の趣旨・概要

東日本大震災により日本人の価値観は【つながり】を重視する方向に変化したと言われている。本課題の目的は、その変化を社会調査により具体的に把握し、持続可能社会転換の方策と安全安心社会の構築の両立に反映させるための検討と提言を行うものである。そのために、様々に提言されている日本人全体の価値観の変化について、統計的な社会調査を用いて代表性の確保された形で把握し、持続可能社会転換への影響（人々の考え方やライフスタイルの変化）について調査検討を行う。さらに、大震災後の社会状況を鑑みて、技術と社会に関わる様々な事項についてのリスク認知・受容性などについても同時に調査検討を行う。調査は、全国の成人男女を母集団とした代表性のある無作為抽出されたサンプル 4000 名を対象に行う。合わせて、過去の知見ではうまく把握できない放射能に関する過剰反応については、フォーカス・グループ・インタビューなどの探索型の定性調査も併せて行い、定量調査への反映を試みる。

#### 5. 研究項目及び実施体制

本課題は、全体として 3 つの調査からなる。なお、本課題はサブテーマには分割しない。

##### 1) 毎月の世論調査

毎月の世論調査により「日本および世界における重要な問題」を把握する。

##### 2) 価値観やライフスタイルに関する世論調査

全国の成人男女を母集団とした住民基本台帳をもとにした代表性のある無作為抽出されたサンプル(2000 名)を対象とした世論調査として実施する。

##### 3) 関東地域を中心とした成人男女を対象とした、安全安心社会構築に関するフォーカス・グループインタビュー調査

フォーカス・グループインタビュー調査を実施することにより、放射能に関する知識、リスク認知とリスク受容性について把握・分析を行う。

・研究体制 ((独)国立環境研究所)

## 6. 研究のイメージ

本課題では、以下の図の中で、橙色で囲んだ部分について実施。

### 技術・社会に対する価値観の変化とリスク受容性に関する調査研究

